

令和4年度 第2回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会議事要旨

1. 日 時：令和4年6月8日(水) 13時00分～14時20分
2. 開催方法：web 会議
3. 出席者：【学内委員】金久、前田、平川、原田の各委員
【学外委員】泉、上治、小館、中西、宮嶋の各委員
4. 欠席者：藤本委員
5. 列席者：秋元監事、金高学長補佐、田巻学長補佐、濱田学長補佐、前阪学長補佐、山田附属図書館長、教務課長、学生課長、国際・学術情報課長、研究・社会連携課長、総務課長、経営戦略課長、施設課長、広報・企画室長、監査室長

6. 内容

(質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ。)

議事に先立ち、金久学長から就任の挨拶及び経営協議会委員等の紹介が行われた。

1) 前回議事要旨確認(確認資料1)

令和3年度第7回・令和4年度第1回経営協議会議事要旨案について確定された。

2) 審議事項

(1) 令和3事業年度に係る財務諸表等について(資料1)

平川委員から配付資料に基づき、令和3事業年度に係る財務諸表等について説明があり、審議の結果原案どおり了承された。

○：資料1-3の6ページ2. 業務内容(6)について、本学ではどの事業のことを指すのか。

●：国立大学法人法で記載されているものを大学でも適用できるということで転記しているものである。具体的には、TLO(技術移転機関)のことを指しており、大学においても研究活動の活性化を図るために企業を設けることができることとなっているが、本学はTLOの法人は設立していない。

(2) 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(管理運営)について(資料2)

平川委員から配付資料に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(管理運営)について説明があり、審議の結果原案どおり了承された。

○：子供たちの体力不足を解消するための Exseed プロジェクトは非常によい取り組みだと思う。現在鹿児島で使われているということだが、九州全域まで広げる予定はあるのか。

●：積極的に活用できる範囲を広げていきたいと考えている。関係者と相談しながら、ぜひ進めていきたい。

○：鹿屋体育大学はスポーツをしている人には知られていると思うが、それ以外の方にはまだまだ知られていないので、このようなプロジェクトとセットで大学の名前を売ることもいいと思う。

●：Exseed に限らず、高齢者の健康づくり運動やスポーツ指導者基礎力テスト(SCCOT)についても積極的にアピールしていきたい。

○：女子学生の比率はどうか。自然科学、特にエンジニアリングの分野は、教員及び学生のうち女性の比率が非常に低いので、まずいかにその分野を増やしていくかということが問われるが、対策はどのようにしているのか。また、女性教員への道としてどのように育成をしているのか。

●：女子の学部生は現在のところ 26.6%、修士課程は 13.3%、博士後期課程が 19.4%である。この件については、毎回ご指摘をいただいているので、念頭に置きながら考えていきたい。

- ：博士後期課程の比率が 20%近いというのはとても素晴らしいことだと思う。博士後期課程に在籍している女子学生をリーダーとしてどう育成していくかということも今後是非検討していただきたい。
- ：博士後期課程の学生の中には社会人として一線で活躍している女性の指導者もおり、そのような方が本学で博士号を取ると社会的にもより一層活躍できるようになっていくと思われるので、引き続き頑張っていきたい。
- ：本学としても、博士後期課程の学生募集や育成方法についてもきちんと進めていきたい。今後もその点については、常にご意見をいただき、ご指導いただければと思う。
- ：Blue Winds に関して、地元の交流事業に参加することは、ほとんどの鹿屋体育大学の学生が体験することなのか。それとも一部の学生だけなのか。
- ：コロナ前までは順調に鹿屋市と連携が進み、本学で様々な試合を開催した際には、たくさんの市民の方が見学に来ていただいた。また、市民参加型の運動会も開催し、多くの学生が鹿屋市と協力して事業を行うことができたと思っている。コロナで一時ストップしたが、再開しようとしているところである。
- ：鹿屋体育大学の学生は日本全国から来ているので、地元の人と接して鹿屋に愛着を持ってもらうためにもこのような事業を活用してほしい。また、メンタルヘルスのにもすごく良い役割をしていると感じたので、ぜひ上手に活用いただければと思う。
- ：鹿屋市では、4月に新入生を招いて歓迎会を開催している。また、小中学校の体育の時間等に学生に来てもらい、学生の一流のパフォーマンスを見てもらう機会を設けている。また、鹿屋市主催のスポーツフェスタを毎年会場の1つとして鹿屋体育大学で実施しているが、大学を訪れたことがないという市民の方も多く、学生と一緒にスポーツを観戦したり、教えてもらったりする交流の場を作るなどして、これからも積極的に大学と一緒に進めていきたい。

3) 報告事項

(1) 令和4年度国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について(報告資料1)

川西総務課長から配付資料に基づき、令和4年度国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について報告があった。

(2) 令和4年度重点プロジェクト事業経費について(報告資料2)

瀬戸口経営戦略課長から配付資料に基づき、令和4年度重点プロジェクト事業経費について報告があった。

- ：障害学生支援分として障害学生の受け入れにかかる体制整備に必要な経費が配分されているが、どのような整備を計画しているのか。
- ：バリアフリー対策と今後メンタルケアも問われてくると思われるので、人的スタッフの支援に執行が可能となっている経費である。具体的な内容については、現在検討を開始しているところである。

(3) 令和3年度実施大学機関別認証評価評価結果について(報告資料3)

瀬戸口経営戦略課長から配付資料に基づき、令和3年度実施大学機関別認証評価評価結果について報告があった。

(4) 令和4年度在籍学生数について(報告資料4)

元明教務課長から配付資料に基づき、令和4年度在籍学生数について報告があった。

(5) 令和3年度卒業生・修了生の進路状況について(報告資料5)

元明教務課長から配付資料に基づき、令和3年度卒業生・修了生の進路状況について報告があった。

- ：中学校の部活動が地域に移行していくことに伴い、今まで部活動の指導を希望する体育の先生が多くいたと思われるが、今後部活動を中心に教員を採用するという方向性が改められていく形になりそうである。そうした時に働き方についてはいろいろな可能性が考えられるが、例えば就職しながら、土日、平日の夕方に地元で指導するというような形もあり、今までと変わってくると思われるが、そのことに対する考えはあるのか。
- ：先日、スポーツ庁で聞いた話では、部活動の外部指導員に対しては、鹿屋体育大学ももちろん期待されており、まず学生自体も外部指導員の対象として期待するものだという事も伺った。またご指摘いただいたように、これからは教員ではなくても、地域のスポーツクラブもしくは総合型地域スポーツクラブの指導員として、また自身は働きながらも違う形で休日を中心に、その後平日も含めて移行していくという話であった。鹿屋体育大学は指導者を育成する大学であるので、教員だけではなく、違う形でも指導できるということにいち早くアンテナを上げていこうと思う。既に本学には学生ボランティアの制度もあり、また、スポーツ指導者基礎力テスト(SCCOT)も進めているので、既存のシーズをうまく使いながら柔軟に対応することが大変大事だと認識している。
- ：学生もあまりまだ理解していないと思うので、フレッシュな情報を学生に届けてほしい。

(学内外の諸情勢について)

(6) 学生の競技成績について(令和4年4月～5月)(報告資料6)

濱田学長補佐から配付資料に基づき、学生の競技成績について(令和4年4月～5月)報告があった。

(7) 本学関係者の活躍について(報告資料7)

金久学長から配付資料に基づき、本学関係者の活躍について報告があった。

- ：延期となっていたかごしま国体がいよいよ来年に迫ってきたので、鹿屋体育大学としても支援いただくと大変ありがたい。
- ：かごしま国体については全学を挙げてサポートしていきたい。
- ：選手としての出場もそうだが、かごしま大会も含めて学生ボランティアの要請もきている。学生が、する・みる・ささえる全てを経験してほしいと思っている。

4) その他

(1) 令和4年度の経営協議会開催日程について(その他資料1)

川西総務課長から配付資料に基づき、令和4年度の経営協議会開催日程について説明があった。

以 上